

廃業旅館の新たな利活用等を通じた 「住んでよし・訪れてよしの湯田温泉」まちづくり（湯田）

チエツクも！



桑折 司

こおり つかさ



宮城県多賀城市出身。京都市の老舗メーカーで飴製造責任者・ブランド再生担当、ビル改装・新工場建て替えのプロジェクトマネージャーとして勤務。

令和7年8月1日に山口市地域おこし協力隊に着任し、湯田地域で活動始める。

山口市全体の感想： 気候は比較的穏やかで四季の変化がはっきりしており、湯田温泉をはじめ身近に温泉があることで、心と体をリセットできる環境だと感じています。歴史・文化・自然・産業がコンパクトに詰まっており、「暮らす」と「旅する」が共存しやすいまちだと思います。

人柄は、初対面でも温かく迎えてくださる方が多く、一度関わると長く応援してくださる印象です。相談ごとにも親身に乘っていただき、挑戦しやすい風土があると感じています。

応募のきっかけ：

湯田温泉をはじめとした山口市の温泉・歴史・文化の魅力を、観光事業として磨き上げたいと思ったからです。山口ならではの物語やものづくり・農業・不動産を掛け合わせ、新しい観光と暮らしのスタイルを生み出したいと考え応募しました。

活動内容：

- ・湯田温泉エリアを中心としたゲストハウス・シェアハウスの企画や運営サポート
- ・日本の道具や工芸品を扱う越境ECサイトの企画・運営、地域事業者へのヒアリングや事業承継・新規事業の可能性整理、体験観光プログラム（温泉・ものづくり・歴史探訪など）の企画等

これまでの感想と今後の目標：

着任してから、山口市の方々の温かさと、挑戦しようとする人を応援してくださる雰囲気支援されてきました。事業者や住民の皆さんと対話を重ねる中で、「事業を残したい」「地域をもっと良くしたい」という思いがたくさん眠っていることを実感しています。今後は、「関われば、生きられる。」という自分の理念を軸に、観光・住まい・ものづくり・教育を横断した事業を組み合わせ、山口市から年間売上15億円規模の滞在・観光産業を生み出すこと、そして若い世代のロールモデルになることを目標に、一歩ずつ形にしていきたいと考えています。

今後の取組予定：

- ・ゲストハウスを核とした体験観光プログラムの開発、山口の工芸品や生活道具を海外へ届ける越境ECの本格運用